



平成 29 年度版 (2018 年 4 月 8 日)

巻頭言 アウトプット

- ◆ 手話...「学ぶ」前に「訪ねよう」 p2
- ◆ 老人クラブ考 p5
- ◆ おんちのモノサシ p7
- ◆ 「あきこまの集い」の一コマ p9

巻頭言

アウトプット

あきこまを支援する会

世話人 高橋 恒治

3月13日付さきがけ新聞の「声の十字路」に一つの投稿文が掲載されました。

“ わが家の青天のへきれき ”と題し、思いを書かれたのは大仙市の工藤正悦さんです。

“ 1月、妻と次男の3人暮らしが妻の入院で、これまで経験したことのない生活に四苦八苦し
た。炊飯器の操作、洗濯機の使い方にも弱い工藤さん。奥さんが退院するまでの1カ月余り、隣に
住む長男や近くのめい御さんに助けられ、突然やって来た生活の不自由さを体験した今、普段当
たり前の生活を送れることの幸せを実感した ”という内容でした。

工藤さんの次男・太(ふとし)さんは栗田養護学校高等部1期生で、25年ほど前に卒業しました。
卒業生10人とその保護者を中心に集う「十人会」を立ち上げ、ちょっとした出来事を肴(サカナ)
に現況を語り合い、励まし合ってきました。工藤さんは太さんの名前にちなんで『ふっとワーク』
《活動の場、たまり場》も作りました。十人会の最盛期は過ぎてしまいましたが、会員に大きな出
来事がある時には今でも集まることがあるといます。

郵政の仕事に30年勤務し、退職後は社会福祉関連で20年余にわたり貢献するなど、地域になく
てはならない存在で、多方面で活躍されて来た工藤さんです。隣に長男家族が住み、近所からおい
御さんめい御さんの支援が得られる環境から、本人とその家族、年老いていく親の生き方を教えら
れました。工藤さんの活動はまさにアウトプットを大事にした活動です。与えられること(インプ
ット)を待つのではなく、積極的に、家族、近隣、親戚の人たちとかかわっていくことの、ありの
ままの自然な生き方の大切さを教えていただきました。

高齢化が進み、人口減少を心配している秋田県です。これまで得た知識や、培ってきた経験を惜
しみなく出す意義は、人口が少なくなるからこそ取り組める意義があり、その普及が効率よく図ら
れるのではないかと、そんなことを考えました、新年度を前に。

(2018. 3. 30)

手話……「学ぶ」前に「訪ねよう」 『岩波ジュニア新書』から

あきこま支援 世話人 高橋 恒治

最近手にした岩波ジュニア新書「手話の世界を訪ねよう」(亀井信孝著 2009.6刊)の<はじめに>に次のような一節があります。

《 引用 手話について学ぶこととは、単に「手話の形や動きを覚える」ことではありません。また、「耳の聞こえない人と一対一で苦勞しながらコミュニケーションを工夫すること」とも少し違います。手話について本当に学ぶということは、ろう者という人びと、つまり手話を自分たちの言語として話して暮らす人たちのことを、その広さと奥ゆきもあわせた全体像として受けとめ、ろう者たちの音を使わない文化を丸ごと理解しようとする事なのです。 》

亀井さんは文化人類学者です。文化人類学者の視点(フィールドワークのセンス)から「手話の世界」をジュニア向けに解説しています。

《 引用 文化人類学的な発想での「手話」の定義 世界各地で、耳に聞こえない人たちの集まりが、手指や顔の表情を用いた視覚的な言語を話していることが知られている。この諸言語を「手話(手話言語)」と総称し、この人々を「ろう者」と呼ぶ。 》 《……学問の理論的な必要性から「手話」や「ろう者」の意味を定めてしまうのではなく、まずはその集まりの場に出かけ、生の現象に出会うところからスタートするという、フィールドワークのセンスを重視したい……。フィールドを歩き回って人間社会の多様性の魅力を探して回る文化人類学は、このような発想をととても大切にします。 》

この本に書かれている、いくつか(二重分節性、人類の言語、脳科学…、多様性と普遍性、広辞苑では、)を述べてみます。

1 二重分節性。初めて知った言葉です。

《 引用 言語学的な意味で、あるコミュニケーション手段が「言語であるか/ないか」を判別する基準とは何でしょうか。【定義】 言語とは、二重分節性を備えた記号の体系である。

これが言語学の見解です。「二重分節性」とは、次の二つの特徴をもつことです。

- ① 意味をもたない有限個の単位音素」といいます)を持ち、組み合わせて意味がある単位(「形態素」といいます)を作り、
- ② さらに、意味がある単位を組み合わせて、文を作ることができる。

日本語で言えば、たとえば

日本語 「イヌ」という語

- ① 「i」「n」「u」とびいう三つの意味をもたない音(音素)を組み合わせて、「イヌ」という意味がある単位(形態系)を作り、
- ② 「イヌ」「が」「歩く」という三つの意味がある単位(形態系)を組み合わせて、「イヌが歩く。」という文を作ることができる。

私たちが学んでいるろう者の手話にも、まったく同じ構造があることが分かってきました。さきほどの「一か月」という語であれば、

- ① 手の形、向き、位置、動きといった、それ自体意味をもたない有限個の要素を組み合わせて、「一か月」という意味がある単位を作り、
- ② 「一か月」「待つ」「頼む」という三つの意味がある単位を合わせて、「一か月待ってください。」という文を作ることができる。

(中略) 手話言語学では、「音素」「形態素」「文」という音声の言語学の用語をそのまま借りて使います。手の形や向きなどは「音(おと)」ではありませんけれども、言語学上の概念としては「音素」と呼んでいます。

(中略) また、手話に使われている「音素」(手の形や動き)の種類が限られているために、ろう者たちはものすごく速い手指の動きであっても、必要な要素だけを読み取って理解することができます。それは、聴者が連続する音のなかから、自分の言語にとって必要な音素を的確に聞き取り、意味のある単位である形態系を正しく認識しているのと、なんら変わりがないのです。 》

2 人類の言語には、音声言語と手話言語の二つのグループ。手話言語は、音声言語に劣らない優れたもの。

日本語は音声言語で、直接伝えたり受け取ったり、文字や音として記録したりできるようになりました。一方、手話言語は音声言語(たとえば日本語)とは全く異なる言語で文字を持っていません。したがって、直接伝えたり受け取ったりすることはできますが、記録として残したりすることができません。しかし、手話は言語として音声言語と対等の働き、いやそれ以上に優れたものを持っています。

音声言語は、音声として、次々に発せられます。「・→・→・→・→」と音声(・)がつながって出てきます。時間の流れ、時間の連続のみで表され、これは一次元です。音声言語が点の連続であるのに対し、手話言語は、点ではなく、面(左右、上下の動きの二次元)であり、さらに前後の動きによって立体的表現(三次元)が行われます。

聴覚を使うことは点のつながり、時間の流れに対し、視覚的言語の手話は、平面及び立体を、三次元で一瞬にして表すことができます。時間尺度で見ると、手話言語が速いことが想像できるし、実際効率がいいことが分かります。耳からの文字情報より、目で文字を読むことが速いことから理解できます。

3 脳科学でも言語としての証明

《 引用 音声言語を話しているときの聴者は、左脳の「言語野」と呼ばれる部分を盛んに使っていることが知られています。手話を話しているときのろう者の脳は、どうでしょうか。やはり、同じ「言語野」が盛んに活動していることが、明らかになりました。最新の脳科学によっても、手話が言語であるということの証明が得られたということになります。 》 《 参考引用【 NHK みんなの手話テキスト<2015>コラム】 「手話の処理は右脳と左脳のどちら？」 この答えは、脳梗塞や脳出血などで右脳や左脳に損傷を受けたろう者が教えてくれます。……右脳を損傷した人手話使用者に、手話の失語はほとんど見られません。右脳を損傷しても手話による会話にはほとんど影響がありません。一方、左脳を損傷した手話使用者は、左脳の損傷を受けた聴者と同様の失語が手話に起こりません。 》

4 多様性と普遍性。(異文化理解のためのキーワード)

《 引用 異文化を学んでいると、人間というのはこれほども違うのかと、驚かされることが多くあります。……このように違いが多く見られる様子を「多様性」といいます。……一方、細かいところは違っていても、大枠として人がすることは同じだという見方もできます。この、人びとの間で何か特徴が共通している様子を「普遍性」と呼びます。……異文化を訪ね歩くと、違いにり出会うことが多いため、つい文化の多様性に目が向きがちです。もちろん、多様性を否定せずにありのまま学ぶことが、異文化理解の出発点です。しかし、違いに目をこらしていると、文化の普遍性にもふと気付くことがあります。「あの人たちは自分たちと違うから、関係ない」と関わりを切るのではなく、対等に出会い対話していくためにも、普遍性を探し求める努力を欠かすことはできません。 》

5 広辞苑では。手話の説明がより実態に沿ってきています。適切な表現になるまで長い年月を要しています。要約して引用すると次の通りです。

《 引用 1955年 初めて刊行されたとき、「手話」という語は載っていなかった。
1976年(第2版) 初めて「手話」が登場。次のように書かれていた。しゅわ【手話】聾啞(ろうあ)者のための、手を使ってする話し方。
1998年(第5版) しゅわ【手話】発語および聴覚障害者によって用いられる伝達手段の一。手の形・動きなどによって意味を伝える。音声言語を単に手話に変換したものと、独自の体系を持つものがある。「法」→口 話
2008年(第6版) しゅわ【手話】聾者によって用いられる、手の形・動き・位置などによって意味を伝える言語。非手指動作と呼ばれる顔の表情やあごの動きなど文法的機能を持つ。

「手を使ってする話し方」から「伝達手段」へ、そして「言語」へ。また、「聾啞者のための」という、あたかもろう者に対して他から与えられたかのようなニュアンスから、「発語および聴覚障害者によって用いられる」となり、ついには「聾者によって用いられる」言語と書き改められました。ここへきて、ようやくろう者は、手話という言語の主役として国語辞典に登場したわけです。初版から数えて、五三年の年月がかかりました。 》 (注：2009年刊行時。2014年現在も第6版)

おわりに 「ジュニア向け」は大人にもやさしい。

日本語(音声言語、文字言語)はあまりにも複雑、多岐の表現にあふれています。使うことのないことばもたくさんあります。「むずかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く」(永六輔さんのことば“障害者予備軍” 2016.10.20 ホームページ「あきこまのたまり場」メッセージ集参照)を思い出してしまいます。ジュニア向け「手話の世界を訪ねよう」は、大人にとっても有益な入門書です。

著者は“ 「人類の言語には、音声言語と手話言語の二つのグループが含まれています」。この事実が広く理解され、社会の一般常識として定着する日も、そう遠くないにちがいありません。 ”と結んでいます。

～ 2017.7.22 あきこまの集いで話題提供 ～

老人クラブ考

あきこまを支援する会 高橋 恒治

老人クラブの名称“老人”がイヤで、クラブに入りたくないという人が私の実家の集落には多いです。ほかの地域でも似たような例があるのではないのでしょうか。障害の“害”の表現が好ましくないのが障がいと表記するのに似ています。看板を変えても、課題解決には結びつかないのですが、どうすればよいのでしょうか。少し考えてみましょう。

私の実家集落は世帯数が 90。老人クラブ会員は 48 人です。毎週 1 回、地域のセンターに集まり活動しています。よく参加してくれているのは 10 人前後で多いときは 15 人にもなります。集まった 10 人の全員が活動をリードしてくれるわけではありません。新しいメニューや話題を準備し引っ張ってくれる人は、二人か三人です。また、活動時間のうち、お茶とおしゃべりの時間がほとんどです。

このことから、「老人クラブは会員の 2 割が参加し、さらにその日の活動は参加者の 2 割によって進められている。予定した新しいメニューや話題にかける時間は過ごす時間の 2 割程度です。言い換えると、黙ってお茶を飲み、他人のおしゃべりを聞き、歌を歌うわけでもなく時間を過ごしている人が多く、ほとんどの時間をお茶やおしゃべりに費やしている」ことが分かります。

さて、40 年ほど前手にした本に「言われてやるか 言われる前にやるか」（渡紀彦著 大和出版）があります。この本の「はじめに」のなかに、『人間は誰でも、良い生活、良い人生を送りたいと願っている。けれども、現実には“良い”と言える人生を送れるのは二割の人達である。残り八割の人達は、殆ど“良い”というものを手にしないまま人生を終る。これが現実である。』とありました。これは「20=80 の法則」とか「パレートの法則」と言われ、経済から生まれた法則らしいです。この本で初めて知りました。

そのころから、この法則を大事にしてきました。いろいろなモノサシで物事（対象）を測ってほしい、経験が豊かでいろいろな考え方ができる人はモノサシの本数が多いのですよ、と今でも話すことがあります。老人はモノサシをいっぱい持っているのです。

《モノサシには 10 の目盛があり、2 と 8 のところに印が付けられてい（ると考える。目盛は全体（100%）の 20%が上位、20%が下位、残りの 60%は中位を意味する。具体的な形のモノサシが無くても、頭の中でイメージするだけでよい。》

このモノサシを先ほどの本の言葉は、「言われてやる人が世の中の 60%」（目盛 2 と 8 の間で中位。一般に普通と言う。）「言われる前にやる人が上位 20%」です。世の中には「言われてもやらない人がいて下位 20%」に当たりますよ、と理解できます。学校でも、会社でも、家庭でも、「いつでも、どこでも、だれにも」この 20%を目指すことが求められているのです。少し例をあげましょう。

◆その日やらなければならない仕事有五つあったら、その五つに順位を付け、そのうちの一つに集中してそれを終えましょう。そうすればあなたがやらなければならないその日の仕事の80%は出来たこととなります。残りの四つに取り組んでも、それは、やらなければならない仕事の20%に過ぎず、順番で4位か5位のもの、今日できなくても大丈夫です。明日がありますよ。

◆冒頭の老人クラブ。参加してくれる10人は会員の20%です。残りのうち60%の30人前後の人は毎回でなく、時々参加、あるいは飲み会が企画されると参加する人で、残りの10人ほどは参加したくないか、体調がよくない方々です。したがって、会員数の半分近くは(表現は悪いですが)会費要員です。でも、運営上とてもとてもありがたい方々です。

◆現職のころ、学校報に、「こちらで言ったことの百分の四だけ返ってくれば、それで満足すべきだ」と(堂々と)書いたことがありました。願いの20%が相手に届き、それを受けて返した相手の反応をこちらが受け取る(満足する)のはわずか4%(返って来た20%の20%)であるからです。演歌歌手の苦労話にキャンペーンがあります。全国100店まわったとしても反応が良いのは4店程度らしいです。それが現実です。

まだまだあります。◆ネクタイの話 ◆病院の話 ◆食堂の話 ◆働きアリの話 ◆お金の話 ◆土地の話 ◆自然の話 ◆大学の話 ◆本・新聞の話 ◆……。

今月13日の地元新聞・経済欄に県内企業の2017年のメインバンクはどこかという記事が載りました。地元金融機関の上位10行のうち、上位二つに8割とありました。県内企業1万2千300社の調査結果で、右の表が順位とシェアです。経済の話ですから、ぴったしです。

順位	金融機関	シェア (%)
1	A	51.83
2	B	30.25
3	C	5.27
4	D	3.40
5	E	2.01
6	F	0.94
7	G	0.70
8	H	0.39
9	I	0.37
10	J	0.36

以前「断捨離のすすめ」が話題になったことがあります。物を捨てる例としてネクタイをあげると、「ネクタイを10本持っているとするれば、気に入ってよくしめていくのはそのうちの2本で、残りの8本には、たまに締めるか、買ってほとんど使わないものが含んでいる。この8本のうち、4、5本は捨てても困りません。タンスがすっきりします」と断捨離の理論は教えてくれます。ネクタイが30本、50本と多くなるとそのことが分かるらしいです。とはいえ、難しいのが断捨離です。

最後に、この原稿2ページ、およそ60行ちよつとの中で、なるほどと思われた部分がありましたか？ 2割に相当するのは12行です。この中に何か納得のいく、役立てられる内容があれば、この原稿を提供した意義があったということですね。

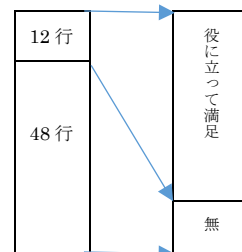
次回3月は、モノサシの中位、下位について触れることにします。 (2018.1.20)

おんちのモノサシ

あきこま支援 高橋恒治

前回の原稿「老人クラブ考」の最後に、約 60 行の中に役に立った個所が 20%相当の 12 行を見つけてもらえれば、投稿した意義があると書きました。図にすると右のようになります。ただし、12 行分がどの部分かは人によって違ってきます。A さんに役立った部分が、B さん、C さんにも同じように有益とは限りません。

「60 行の文章の中で、役に立った部分が 12 行 (20%) あれば十分。残りは無くてもよい」の意味



また、図では 48 行が「無」(意義なし)です。忘れても良い部分です。しかし、この中に有益な 12 行を導き、補い、あるいは引き立てる存在になっている表現もあるので単純に捨てるわけにはいきません。もしかしてこれから宝になる可能性も。

★ 「ときめきのモノサシ」と「おんちのモノサシ」

そこで私は、20・60・20に分けた上位 20%、それに続く中位を測るときに使うモノサシを「ときめきのモノサシ」と呼び、反対に中位から下位を測りたいモノサシを「おんちのモノサシ」と名付けています。一つのモノサシが「ときめきのモノサシ」になって上の方を、「おんちのモノサシ」となって下の方を測ります。「ときめき」と「おんち」が混ざり合っていて、見方によっては「ときめき」ともなり「おんち」にもなるこの部分は、一般に「普通(ふつう)」と言いますね。「ふつう」はあいまいな表現です。「ふつうのモノサシ」は作っても役立ちません。大事なのは、私たちには「ときめきのモノサシ」をもって測れる部分と、「おんちのモノサシ」で測っている部分があるということです。

★ 「おんち」は音痴から

さて、おんちは言うまでもなく「音痴」から来ています。漢字で書くと歌とか音楽に結びつけられやすいので、あえてひらがなで「おんち」としました。元祖音痴のほか音痴で表現される代表に「方向音痴」があります。それを「方向おんち」。「機械おんち」「パソコンおんち」「スマホおんち」「味おんち」など挙げればきりがなく、たくさんあります。誰にでも苦手、不器用の「おんち」の部分はあります。言葉や行動で出さないでいるだけです。

以前、神奈川県相模原市の施設で元スタッフによる痛ましい殺人事件がありました。施設利用者の中で手のかかる利用者、重い障害の利用者がいなくなると、世の中、自分や周りが幸せになるとの発想で犯行に及びました。「知的おんち」のモノサシで測り、下位の人を消したのでした。ところが、集団をつくるとどうしても順番ができますから、残った集団の中にも新たに下位が生じます。元スタッフはこのことに気づかなかつた、教えられていなかったのです。下位を消すのではなく、下位に手を差し伸べる、支援する、どうすれば少しでも改善できるかに取り組むことが施設のスタッフなど支援者の仕事のはずなのに。

★ 教育に目を向けると。

私たちと縁の深い教育に目を向けてみましょう。「ときめきのモノサシ」で測ったとき、得意な部分、器用な部分をもって、どんどん伸びる子がいます。一を聞いて五から十を知ってしまう子どもです。こうした上位 20%の子どもは、教師にそれほど手を掛けられなくても、学ぶ場所と時間、ちょっとしたヒントが与えられれば自ら考えて取り組める、任せられる子どもです。若い教師時代、学業やスポーツに

優れた教え子が育ったことについて、「教師冥利に尽きる」と自負している先輩がいました。教師の力よりも本人の力だよな、と子どもに助けられている教師の姿に?!でした。

教師がもっとも目をかけてほしいのは、一を聞いてその半分、あるいはそれ以下しか手にできない子どもに対してです。「ときめきのモノサシ」では測らず「おんちのモノサシ」の出番です。中位から下位の子どもたちにこそ、教師は、時間とアイデアをもって、たくさんの手を差し伸べてほしいのです。

★ 手話言語条例にもふたつのモノサシを

下の表は、音声言語と手話言語、第一言語と第二言語、聴者・難聴者・ろう者の視点から、その関係性を示したものです。日本で生まれ、音声言語が日本語の場合です。

	〈聴者〉	〈難聴者〉 (中途失聴、軽度・中等度・高度)	〈ろう者〉
〈言語獲得〉	音声言語	音声言語・手話言語	手話言語
〈言語の学び〉	第1言語(日本語) 第2言語(手話)	主として日本語、時に手話も。 〃 手話、時に日本語も。	第1言語(手話) 第2言語(日本語)

この表を見ながら話を先に進めます。

昨年4月、秋田県手話言語条例ができて1年。手話が言語として位置づけられました。音声言語(日本語・第一言語)の聴者にとって手話は第二言語です。外国語(英語などの音声言語)も第二言語です。英語を第二言語として活用できる力を英語力というように、手話の場合を手話力と言えば、英語力も手話力もハードルはかなり高いと言わざるを得ません、第二言語ですから。

英語力を「ときめきのモノサシ」で測ると上位は10人に二人となります。でも、中学校から英語を学び、長い間英語に触れていても二人が誕生しているとは到底思えません。さらに英語を第二言語として役立たせる場所も機会も、秋田にはありませんので英語力達成者20%は不要です。手話力も10人に二人の計算でいくと、聴者とろう者で二人(実際はこれよりずっと少ない数です)になりますから、スムーズな会話を実現するには、手話力のある聴者が最低一人必要です。

ここ数年、手話とその普及活動が注目されています。手話普及の目標を10人のうちの二人の確保として現況をチェックしてみましょう。手話にかかわっている人、少しでもかかわりのある人を大きくくくると、①ろう者本人とその家族 ② 仕事関連(教師など) ③手話の世界に関心あり の三つに分けられます。このうち、②や③は仕事から離れたり、興味関心が薄く?なったりすることが考えら、実に不安定です。安定しているのは①です。縁が途切れることがありません、家族ですから。したがって、結論を先にいうと、あと一人の聴者は家族、特に保護者の関わりが重要になってきます。「あきこまの集い」の開催の意義もここにあります。保護者がもっともっと前面に出て来てほしいのです。

「手話おんち」のモノサシで測ると、手話に全く興味関心のない人は存在します。気づいてほしいのは、「英語を必要としないとか、高齢になって使うことはないとかとは違い、手話はちょっと別である」ということです。高齢になって音声言語でのやり取りが不自由になったとき、日本語に片言の英語を混ぜて使うように手話が使えたと、離れていても、大声を出さなくても日常の簡単な会話はできます。秋田の悩み、人口減少と高齢化。人口が少ない分、秋田は手話普及にとって達成しやすい環境にある、数値からみてそのような気がしてきました。また、健康のために運動し、体や手を動かして脳トレをしています。その一つに『手話で輝く健康寿命』を提唱する、いかがでしょうか。

(2018.3.20)

あきこまの集い写真集 …… 各開催月のコマ

<p>2016.2 (平成 28)</p>		<p>2016.5</p>	
<p>2016.7</p>		<p>2016.9</p>	<p>?</p> 
<p>2017.1 (平成 29)</p>		<p>2017.3</p>	
<p>2017.5</p>		<p>2017.7</p>	
<p>2017.9</p>		<p>2017.11</p>	
<p>2018.1 (平成 30)</p>		<p>2018.3</p>	